

平成26年度
事業報告書

学校法人 常葉学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	5
(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等の状況	6
(5) 役員の概要	7
(6) 評議員の概要	8
(7) 教職員の概要	9

2. 事業の概要

(1) 重点事業計画の実施状況	10
(2) その他の事業の実施状況	11
(3) 施設等の状況	21
(4) 理事会・評議員会開催状況、監事監査実施状況	23

3. 財務の概要

(1) 財務の概要	24
(2) 資金収支計算書	25
(3) 消費収支計算書	27
(4) 貸借対照表	28
(5) 主な財務比率比較	29
(6) 借入金の状況	30
(7) 寄付金の状況	30
(8) 補助金の状況	31

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

建学の精神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ

枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禪師のこゝば「一日作さざれば一日食はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

(2) 沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校（普通科）開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡女子高等学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校
昭和41年	4月	常葉女子短期大学（国文科、保育科）開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園
昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置

昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 ○常葉女子短期大学→常葉学園短期大学 ○常葉女子短期大学附属とは幼稚園→常葉学園短期大学附属とは幼稚園 ○常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園→常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 ○常葉高等学校→常葉学園高等学校 ○常葉中学校→常葉学園中学校 ○橘高等学校→常葉学園橘高等学校 ○橘中学校→常葉学園橘中学校 ○常葉短大附属菊川高校→常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科（美術・デザイン専攻）[学位授与機構認定専攻科]設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻 [学位授与機構認定専攻科] 及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校
平成8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更
平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置

		常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部グローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	3月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止
	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置
平成22年	3月	浜松大学経営情報学部（経営情報学科・情報ネットワーク学科）及び国際経済学部（国際経済学科）廃止
	4月	浜松大学健康プロデュース学部（健康柔道整復学科、健康鍼灸学科）設置 富士常葉大学社会環境学部（社会環境学科）設置
平成24年	8月	常葉学園高等学校全日制課程家庭科廃止認可、常葉学園医療専門学校廃止認可
平成25年	3月	富士常葉大学環境防災学部廃止
	4月	大学統合等に伴う学校名の変更 ○常葉学園大学→常葉大学 ○常葉学園短期大学→常葉大学短期大学部 ○常葉学園大学教育学部附属橘小学校

- 常葉大学教育学部附属橘小学校
 - 常葉学園短期大学附属とは幼稚園
 - 常葉大学短期大学部附属とは幼稚園
 - 常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園
 - 常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園
- 常葉大学に学部、大学院研究科及び別科を設置
- 法学部法律学科
 - 健康科学部看護学科・同静岡理学療法学科
 - 経営学部経営学科
 - 健康プロデュース学部健康栄養学科・同こども健康学科・同心身マネジメント学科・同健康鍼灸学科・同健康柔道整復学科
 - 保健医療学部理学療法学科・同作業療法学科
 - 社会環境学部社会環境学科
 - 保育学部保育学科
 - 健康科学研究科健康栄養科学専攻・同臨床心理学専攻
 - 環境防災学研究科環境防災専攻
 - 留学生別科

- 平成26年 3月 浜松大学留学生別科及び富士常葉大学留学生別科廃止
- 6月 富士常葉大学大学院廃止認可
- 10月 常葉学園橘高等学校全日課程音楽科廃止認可
- 平成27年 3月 浜松大学大学院健康科学研究科廃止

(3)設置する学校・学部・学科等

(平成26年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・専攻科・課程	専攻・学科・課程・科	開設年月	摘要
常葉大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	昭和55年4月	
			生涯学習学科	平成10年4月	
			心理教育学科	平成16年4月	
		外国語学部	英米語学科	昭和59年4月	
			グローバルコミュニケーション学科	平成16年4月	
		造形学部	造形学科	平成14年4月	
		法学部	法律学科	平成25年4月	
		健康科学部	看護学科	平成25年4月	
			静岡理学療法学科	平成25年4月	
		経営学部	経営学科	平成25年4月	
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成25年4月	
			こども健康学科	平成25年4月	
			心身マネジメント学科	平成25年4月	
			健康鍼灸学科	平成25年4月	
			健康柔道整復学科	平成25年4月	
		保健医療学部	理学療法学科	平成25年4月	
作業療法学科	平成25年4月				
社会環境学部	社会環境学科	平成25年4月			
保育学部	保育学科	平成25年4月			
	留学生別科	平成25年4月			
常葉大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	平成8年4月	
			国際教育専攻	平成8年4月	
		初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	平成20年4月	
		健康科学研究科	健康栄養科学専攻	平成25年4月	
			臨床心理学専攻	平成25年4月	
環境防災研究科	環境防災専攻	平成25年4月			
浜松大学	昭和63年4月	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	平成19年4月	※1
			サービスと経営学科	平成19年4月	※1
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	平成17年4月	※1
			こども健康学科	平成17年4月	※1
			心身マネジメント学科	平成17年4月	※1
			健康鍼灸学科	平成22年4月	※1
			健康柔道整復学科	平成22年4月	※1
		保健医療学部	理学療法学科	平成21年4月	※1
			作業療法学科	平成21年4月	※1
		浜松大学大学院	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻
健康科学研究科	臨床心理学専攻			平成21年4月	※2
富士常葉大学	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	平成12年4月	※1
		社会環境学部	社会環境学科	平成22年4月	※1
		保育学部	保育学科	平成18年4月	※1
富士常葉大学大学院	平成18年4月	環境防災研究科	環境防災専攻	平成18年4月	※3
常葉大学短期大学部	昭和41年4月		日本語日本文学科	昭和41年4月	
			英語英文科	昭和47年4月	
			保育科	昭和41年4月	
		専攻科	音楽科	昭和43年4月	
			国語国文専攻	平成7年4月	
			保育専攻	昭和45年4月	
音楽専攻	昭和45年4月				
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	平成17年4月	
常葉学園高等学校	昭和27年4月	全日制課程	普通科	昭和27年4月	
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	昭和58年4月	
			普通科	昭和38年4月	
			音楽科	昭和46年4月	※3
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	昭和47年4月	
			美術・デザイン科	昭和47年4月	
常葉学園中学校	昭和23年4月				
常葉学園橘中学校	昭和40年4月				
常葉学園菊川中学校	平成15年4月				
常葉大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月				
常葉大学短期大学部附属とこほ幼稚園	昭和41年4月				
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園	昭和45年4月				

※1 学生募集停止、平成27年度をもって廃止予定

※2 平成26年度(平成27年3月)廃止届出提出

※3 平成26年度廃止認可申請

(4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成26年5月1日現在)

学校名	研究科・学部・専攻科・課程	専攻・学科・課程・科	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	440	596	
		生涯学習学科	80	310	369	
		心理教育学科	80	310	299	
	外国語学部	英米語学科	100	410	422	
		グローバルコミュニケーション学科	70	290	254	
	造形学部	造形学科	80	330	367	
	法学部	法律学科	160	320	374	
	健康科学部	看護学科	80	160	162	
		静岡理学療法学科	60	120	147	
	経営学部	経営学科	300	600	514	
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	160	184	
		こども健康学科	50	100	107	
		心身マネジメント学科	110	220	228	
		健康鍼灸学科	30	60	42	
		健康柔道整復学科	30	60	60	
	保健医療学部	理学療法学科	40	80	88	
		作業療法学科	40	80	78	
	社会環境学部	社会環境学科	100	200	193	
	保育学部	保育学科	80	160	183	
	常葉大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	0
国際教育専攻			10	20	4	
初等教育高度実践研究科		初等教育高度実践専攻	20	40	24	
健康科学研究科		健康栄養科学専攻	5	10	3	
		臨床心理学専攻	10	20	20	
環境防災研究科		環境防災専攻	10	20	2	
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	-	290	152	※1
		サービスと経営学科	-	270	164	※1
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	-	180	132	※1
		こども健康学科	-	160	99	※1
		心身マネジメント学科	-	250	166	※1
		健康鍼灸学科	-	60	31	※1
		健康柔道整復学科	-	60	63	※1
	保健医療学部	理学療法学科	-	80	92	※1
作業療法学科		-	80	66	※1	
浜松大学大学院	経営学研究科	経営学専攻	15	30	6	※1
	健康科学研究科	臨床心理学専攻	-	-	7	※2
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	-	410	244	※1
	社会環境学部	社会環境学科	-	280	139	※1
	保育学部	保育学科	-	170	168	※1
富士常葉大学大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	-	-	0	※3
常葉大学短期大学部	専攻科	日本語日本文学科	80	160	108	
		英語英文科	80	160	76	
		保育科	200	400	424	
		音楽科	55	110	70	
	専攻科	国語国文専攻	20	40	20	
		保育専攻	20	40	29	
		音楽専攻	20	40	34	
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	医療専門課程	理学療法学科	-	160	116	※1
常葉学園高等学校	全日制課程	普通科	240	720	626	
		英数科	80	240	142	
		音楽科	-	-	0	※3
常葉学園橘高等学校	全日制課程	普通科	420	1,260	927	
		美術・デザイン科	60	180	126	
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	普通科	315	945	812	
常葉学園中学校			80	240	136	
常葉学園橘中学校			90	270	187	
常葉学園菊川中学校			60	180	182	
常葉大学教育学部附属橘小学校			60	360	280	
常葉大学短期大学部附属とこほ幼稚園			90	240	232	
常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園			86	230	227	

※1 学生募集停止、平成27年度をもって廃止予定

※2 平成26年度（平成27年3月）廃止届出提出

※3 平成26年度廃止認可申請

(5) 役員概要

理事 11人 (定数 10人以上 13人以内)

監事 4人 (定数 2人以上 5人以内)

(平成26年4月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤別	摘要
理事長 常務理事 理事	木宮健二	常勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任 (平成25年3月迄) 平成25年4月常葉大学短期大学部学長就任
常務理事 理事	木宮岳志	常勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月常務理事就任 平成21年4月副理事長就任 (平成25年3月迄) 平成22年4月常葉学園短期大学学長就任 (平成25年3月迄)
常務理事 理事	高木敏正	常勤	平成21年4月理事就任 平成21年4月常務理事就任
常務理事 理事	加藤薫	常勤	平成23年4月理事就任 平成23年4月常務理事就任
常務理事 理事	佐々木弘	常勤	平成25年4月理事就任 平成25年4月常務理事就任
理事	西頭徳三	常勤	平成23年4月監事就任 (平成25年3月迄) 平成25年4月常葉大学学長就任 平成25年4月理事就任
理事	木村美知子	常勤	平成23年4月常葉学園中・高等学校校長就任 平成23年4月理事就任
理事	土屋義人	常勤	平成24年4月常葉学園菊川中・高等学校校長就任 平成25年4月理事就任
理事	宮川勇	非常勤	平成23年4月理事就任 [浜松商工会議所 相談役]
理事	神野建二	非常勤	平成23年4月理事就任 [東海澱粉株式会社 代表取締役会長]
理事	北村敏廣	非常勤	平成23年4月理事就任 [株式会社静岡新聞社 代表取締役専務]
監事	水島和夫	非常勤	平成25年4月監事就任 [元国際医療福祉大学参与]
監事	阿部浩三	非常勤	平成25年4月監事就任 [臨濟寺老師]
監事	齋藤安彦	非常勤	平成21年4月監事就任 [弁護士]
監事	狩野義之	非常勤	平成25年4月監事就任 [静岡県対がん協会事務局長]

(6) 評議員の概要

評議員41人（定数39人以上51人以内）

（平成26年4月1日現在）

氏名	在任年月	主な現職等
西頭 徳三	1年	常葉大学学長（浜松大学・富士常葉大学学長併任）、理事
木宮 健二	12年	常葉大学短期大学部学長、理事長
岡本 徹	1年	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
木村 美知子	3年	常葉学園中・高等学校校長、理事
吉村 耕司	8年	常葉学園橘中・高等学校校長
土屋 義人	2年	常葉学園菊川中・高等学校校長、理事
柴田 幸洋	2年	常葉大学教育学部附属橘小学校校長
稲葉 昌代	4年	常葉大学短期大学部附属とは幼稚園園長
堀 則雄	1年	常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園園長
山崎 正	1年	常葉大学副学長（静岡キャンパス）
田中 誠一	1年	常葉大学副学長（浜松キャンパス）
稲葉 光彦	8年	常葉大学副学長（富士キャンパス）
鈴木 薫	6年	常葉大学入学センター長
小田切 真	1年	常葉大学教務部長
鈴木 治	3年	常葉大学学生部長
山本 隆三	1年	常葉大学キャリアサポートセンター長
畑 隆	5年	常葉大学図書館長
小田 寛人	新任	常葉大学短期大学部学生部長
木宮 岳志	6年11か月	常葉学園本部事務局長、理事
高木 敏正	5年	常葉学園本部総務部長、理事
佐々木 弘	1年	常葉学園本部企画部長、理事
勝俣 元雅	29年	常葉学園大学第1回卒、常葉大学教職大学院主幹
池村 俊典	3年	浜松大学第1回卒
小倉 岳彦	14年	常葉学園富士短期大学第1回卒
稲川 直子	5年	常葉学園短期大学第2回卒
小澤 美佐子	13年	常葉学園中・高校第13回卒
村上 信也	9年	常葉学園橘中・高校第7回卒
伊藤 元久	14年	常葉学園菊川中・高校第6回卒
町田 益己	35年11か月	常葉学園橘中・高校第7回卒、常葉大学後援会静岡
矢部 正則	5年	常葉大学後援会浜松
三澤 賢治	9年	常葉大学後援会富士
荻野 義明	1年	常葉大学短期大学部後援会OB会
前畑 謙次	5年	常葉学園中・高校PTA
山田 誠	9年	常葉学園橘中・高校第15回卒、常葉学園橘中・高校OB後援会
大橋 隆夫	7年	元常葉学園菊川中・高校PTA、後援会長
宮川 勇	1年	浜松商工会議所相談役、理事
神野 建二	1年	東海澱粉株式会社代表取締役会長、理事
北村 敏廣	1年	株式会社静岡新聞社代表取締役専務、理事
宮坂 広志	1年	静岡ガス株式会社取締役専務執行役員
望月 律子	1年	社団法人静岡県看護協会会長
加藤 薫	3年	常葉大学事務局長、理事

(7) 教職員の概要

(平成26年5月1日現在 単位：人)

		常葉学園本部	常葉大学 (静・浜・富C)	浜松大学	富士常葉大学	常葉大学短大部	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務	0	271	44	18	42	35	10
	兼務	0	269	35	34	151	28	13
職員	本務	41	88	13	10	13	4	1
	兼務	32	40	7	9	8	1	1

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	58	14	50	13	26	11	13
	兼務	46	6	40	8	18	5	5
職員	本務	4	1	5	1	1	1	1
	兼務	5	5	3	0	1	0	0

		静岡リハ専	常葉リハ病院	総合計
教員	本務	6	0	611
	兼務	13	0	671
職員	本務	2	115	301
	兼務	1	28	141

(注) 本務者の平均年齢は、教員47.1歳 職員は41.5歳である。

2. 事業の概要

(1) 重点事業計画の実施状況

平成26年度におきましては、前年度明らかになった補助金の過大受給事案を踏まえ、¹⁾ ガバナンス体制の再構築に努めるとともに²⁾ コンプライアンスを機能させるための諸施策の検討、従来から取り組んできた特色ある教育研究活動のより一層の充実と教育環境の整備、常葉学園（中期）施設整備計画に基づく校舎改築事業の検討を軸に、以下の5つの重点事業計画を推進いたしました。

i. 法人のガバナンス体制の再構築及び大学のガバナンス改革の推進

* 法人のガバナンス体制の再構築については、法人運営の健全性と透明性を高め、遵法性を確保するため、現状における諸課題の洗い出しを行い、次年度から基本戦略、推進体制等の具体的施策を検討することにしました。

また、大学のガバナンス改革の推進については、学校教育法及び同法施行規則の改正に伴い、学長のリーダーシップのもとで戦略的に大学を運営することができるガバナンス体制の構築を図ることを目的として平成27年度から大学、大学院及び短大部の学則の一部を変更することに決定しました。

ii. 大学統合に伴う留意事項への対応

* 大学全体、各学部及び研究科に付された留意事項について着実に対応した結果、統合時に付されていた33項目の留意事項が6項目まで減少しました。

iii. 常葉大学短期大学部の学科再編計画及び校舎改築基本計画の策定

* 学科の廃止も含めた抜本的な学科再編計画（学校規模・組織、校舎の規模・配置計画等）の策定にはなお時間を要するとの結論に至ったことから、策定までの暫定措置として、平成28年度から①各科の収容定員減（保育科を除く。日文科160人→100人、英文科160人→80人、音楽科110人→80人）、②音楽科及び音楽専攻の納付金の改定（授業料78万円→98万円）、③教育課程及び資格取得を見直し適正規模に見合った教育活動、を行うこととし、学科再編計画は次年度への継続事業としました。

このことに伴い、橘中・高校の校舎改築整備を短大部に優先して進めることとしたため、本年度における校舎改築基本計画の策定作業は一旦中止し、学科再編計画の策定を待つて再開することにしました。

iv. 常葉学園施設整備計画（改築）中期計画に基づく校舎等整備事業の推進

* これまでの実績等を踏まえて計画を時点修正するとともに、短大部の校舎改築整備に代えて耐震性の劣る橘中・高校の校舎改築整備を優先することにしたほか（基本設計にも着手）、新たに常葉リハビリテーション病院の隣地に通所リハビリテーション施設を建築する計画変

¹⁾ ガバナンス

統治。組織や集団に関わるメンバーが、主体的に意思決定・合意形成を行うシステムのこと。

²⁾ コンプライアンス

法令順守。法律や社会的通念を守ること。

更を行いました。

v. 学校法人会計基準の一部変更に伴う会計処理等への対応準備

- * 平成27年度から収支計算書の様式や勘定科目の記載方法が大幅に変更されるのに対応し、関係する規則等の改正や会計処理システムの改修に取り組み、27年度当初予算から新会計基準に対応した編成を行いました。

(2) その他の事業の実施状況

① 組織の充実・強化

大学統合の第二段階（中・長期計画）を検討する運営組織として、大学改革推進事務局が開催する大学改革推進会議を6回開催しました。会議には、学長及び副学長が教学代表として参画し、類似学部や静岡キャンパスの学部再編の是非を中心に議論を進めるとともに、同事務局を発展改組して学園傘下の各学校の将来構想を検討する常設組織「将来構想検討委員会」を新たに設置し、平成27年度から協議を始めることにしました。

このほか、学校法人と大学に対してガバナンス改革が強く求められていることに鑑み、学校法人においては常務理事会を原則として毎月2回（合計23回）開催し、本法人が直面する重要な諸課題について基本的方向性を示しました。しかしながら、ガバナンス改革に特化したガバナンス委員会の設置には至らず、次年度の課題として残りました。

一方、大学においては、統合効果を最大限活かすために「3つの教育理念」及び「3つの戦略」を三位一体的に運用しながら、教員の任用及び昇任に関する規程の制定、カリキュラム改善取り組み方針の作成、COC事業への申請等の諸施策を推進しました。

さらに、コンプライアンス意識を向上させるため、管理職研修会（8月6日～7日実施）及び教職員夏季研修会（8月29日実施）において、俵法律事務所の小川洋一弁護士によるコンプライアンスの講演会を実施したほか、関連法規の知識修得を期すため、新任副主務を対象とした法令・規程をテーマにした基本研修を7月に実施しました。

② 財務の健全化

学校法人の主な財源は、帰属収入の7割弱を占める学生生徒等納付金であり、財務基盤の強化・健全化のためには、何よりも学生・生徒等を安定的に確保する必要があります。それには、学生、生徒、保護者の満足度を高めるよう自己点検・評価に努め、より質の高い教育を提供し続けるとともに、県下最大規模の私学として信頼される「常葉ブランド」を確立する必要があります。

学園全体の事業活動収入（帰属収入）は、平成21年度以降、毎年度125億円程度で推移していましたが、平成26年度決算では133億円まで増加しました。その要因は、統合効果により前年度に引き続き本年度も大学全体の入学定員を確保したこと、新設した法学部・健康科学部も2年続けて入学定員を確保したところにあります。これらにより、学生生徒納付金収入は、平成24年度が80億円だったのに対し、平成25年度は84億円、平成26年度は89億円と着実な伸びを示しており、平成27年度におきましては法学部・健康科学部の学年進行によりさらなる増額を見込めるまでに至っております。

また、学生生徒等納付金に次ぐ収入である補助金については、平成21年度以降、毎年度20億

円程度を安定して獲得しており、本年度決算におきましても先進的な教育事業等に交付される特別加算枠の有効活用等に努めた結果、前年度並みの水準を維持することができました。

他方、教育研究環境の整備・向上を期して、施設設備の充実や教育研究経費支出の割合を高めるよう努めているほか、学園の将来に亘る存立基盤を強化するため、基本財産の増強にも努力しております。

今後も事業別予算編成の中で経費の削減や効率的な運用に努める一方、計画的に教育研究環境の整備を進めること等により、学園の財務の健全化に努めてまいります。

なお、財務の公開にあたっては、学校法人が公共性の高い法人として社会に対する説明責任を果たすため、平成17年度に制定した財務書類閲覧事務取扱要領を遵守した情報公開に努めたほか、インターネット等を活用して、広く一般に向けた分かりやすい情報の提供を行ったところであります。

③ 特色ある教育事業の実施

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新たな教育研究にも取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指し、平成26年度は以下に掲げる教育事業を中心に推進しました。

○ 大学・大学院、短期大学、専門学校

〈常葉大学・大学院〉

i. 大学統合に伴う留意事項への対応

- * 大学改革推進会議を6回開催し、完成年度（平成28年度）以降の第二段階計画の具体策等について検討しました。

ii. カリキュラム改善の推進

- * 教育コーディネーターを中心に学科ごとの³⁾ AP（アドミッション・ポリシー）、⁴⁾ CP（カリキュラム・ポリシー）、⁵⁾ DP（デュプロマ・ポリシー）の見直しやカリキュラム・マップの作成等、カリキュラム改善に取り組みました。教養教育については、チーフ会議やワーキンググループに加え4つの作業部会も開催し、継続的に検証を進めました。

また、大学改革フォーラムを静岡C（4月）と浜松C（11月）で開催し、教育改善の

³⁾ AP（アドミッション・ポリシー）

入学者受け入れ方針

⁴⁾ CP（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成方針

⁵⁾ DP（デュプロマ・ポリシー）

学位授与の方針

進め方等について議論を深めました。

iii. 大学院の整理・充実の検討

- * 大学院研究科の新規設置について検討を始めたほか、既設大学院では、ガイダンス等を積極的に開催して大学院における研究活動の魅力をアピールするとともに、学部生に直接アプローチすることにより進学意欲の掘り起こしに努めるなど、学生確保に精力的に取り組みました。

〈静岡キャンパス・大学院〉

i. 教育学部の改善

- * 将来の課程・学科再編を見据え、今後の教員採用数の推移や教職免許法改正の情報等の収集に努めました。また、教職支援センターへの教職指導員の増員、特別指導プログラムの導入により教員採用試験の指導体制を強化したこと等が功を奏し、本年度の教員採用試験合格者は98人と前年度を10人上回る結果を残しました。

ii. 外国語学部の改善・改革

- * 英米語学科では、学科再編をにらんでカリキュラム改革の検討に着手し、グローバル・コミュニケーション学科では、来年度でカリキュラム改訂4年目を迎えるのに当たり、4年生の授業内容の一部見直しを行ったほか、新規に開拓した韓国、台湾、スペイン、アメリカの各大学への語学研修を実施しました。

iii. 教育の継続と発展（3支援センターの充実）

- * 教職支援センター、学生生活支援センター、キャリアサポートセンターの機能のより一層の強化を図るため、特にマンパワーの充実に努めることにより、学生から寄せられる教職支援、学生支援、就職・進学支援等の要望にきめ細かに対応しました。

〈浜松キャンパス・浜松大学・大学院〉

i. 教育・研究活動の充実

- * 全学共通科目については、教養教育ワーキンググループのもと、平成29年度の実施に向けてカリキュラム改革を推進しました。また、経営学部の専門教育科目については、前年度に引き続き、浜松キャンパスと富士キャンパスとの授業内容及びテキストの統一を推進しました。

ii. キャリア支援の強化

- * 内定率の向上を最重要課題としてキャリアカウンセリングの充実、ハローワーク及び地元企業と緊密に連携した求人斡旋、未内定者（卒業生）に対する就職支援の継続等の事業を推進した結果、就職内定率は97.4%（前年度は96.8%）を達成することができました。

iii. 社会貢献活動の推進

- * 公開講座（8講座）、地域・行政・経済界との連携事業（5事業）、北区地域力向上事業（6事業）、細江警察署との連携事業（4事業）、障がい者支援事業（2事業）等、多彩な社会貢献活動を実践しました。

〈富士キャンパス・富士常葉大学〉

i. 大学統合に伴う諸課題への対応

- * 大学統合に伴い、富士キャンパスの各学部（経営学部、社会環境学部、保育学部）及び研究科（環境防災研究科）に付された留意事項の改善に積極的に取り組みました。

ii. 少人数教育による人間力の向上

- * 人間力セミナー（1年次）では、大学生活を主体的・計画的に行う能力の基礎となる「人間力」を、教養セミナー（2年次）では、物事を客観的事実に基づく「論理的思考力」を、ふじとこ未来塾（3年次）では、地域が抱える諸課題を的確に捉えて改善に導く「創意工夫能力」を、少人数教育の実践を通じて涵養しています。

iii. 高大連携の強化

- * 協定締結校の教職員に対しては定期的に推進会議を開催することにより、現場の声を高大連携事業に速やかに反映させるよう努めたほか、協定締結校の生徒に対しては出前講座・キャンパス講義・おもしろ講座〈富士山学習〉等の学習機会の提供を通して、課題解決型学習や体験型学習を体験してもらうなどの活動を行いました。

〈常葉大学短期大学部〉

i. 学科構成等の見直し

- * 学科の廃止も含めた抜本的な学科再編計画（学校規模・組織、校舎の規模・配置計画等）の策定にはなお時間を要するとの結論に至ったことから、策定までの暫定措置として、平成28年度から①各科の収容定員減（保育科を除く。日文科160人→100人、英文科160人→80人、音楽科110人→80人）、②音楽科及び音楽専攻の納付金の改定（授業料78万円→98万円）、③教育課程及び資格取得を見直し適正規模に見合った教育活動、を行うこととしました。

ii. 校舎新築計画の策定

- * 年度当初において、新築場所・時期・規模の決定に必要なデータ収集及び検討を集中的に行いました。しかしながら、年度途中において学科再編計画策定の先送り及び校舎改築計画の繰り延べが決定したことに伴い、策定作業は一時的に中止しています。

iii. 自己点検・評価の促進

- * 短期大学基準協会による第三者認証評価を受審しました。報告書の提出（6月）、訪問調査の実施（10月）、評価の内示（12月）を経て、本年度末（3月）に全ての評価基準を満たしていることから「適格」との認証を受けました。

〈常葉学園静岡リハビリテーション専門学校〉

i. 国家試験合格率の向上

- * 成績不振者に対する個別指導、専門講師及び専任教員による特別講義、定期的な模擬試験の実施等を通じて、合格率100%を目指しましたが、残念ながら77.7%にとどまり（全国の合格率82.7%）目標達成には至りませんでした。

ii. 臨床実習対策を通じた確実な知識と技術の習得

- * 外部講師による講義、ゼミ単位での実技演習、全学生を対象とした⁶⁾コンピテンシー

診断、症例発表等の多彩な実習対策を実施し、確実な知識と技術の習得に努めました。

iii. 就職支援の強化及び卒後教育の拡充

- * 在学生に対しては、キャリアサポートセンターが主催する就職ガイダンスの実施、県内外230施設に対する求人依頼等の活動を通じて就職支援に努めたほか、卒業生を対象としたセミナーも開催し、キャリアアップ支援を行いました。

○ 高等学校、中学校、小学校

〈常葉学園中学校・高等学校〉

i. 一夢を実現させる学校一を目指す取り組み

- * 手帳の活用・朝学習の推進等を通じた「知性」を高める指導、あいさつ運動・ボランティア活動等を通じた「自立心」を育てる指導、社会福祉行事への参加・卒業生との交流等を通じた「豊かな心」を引き出す指導等の取り組みを推進しました。

ii. 【高校】進路達成を目指した学力を高める取り組み

- * 行事及び日課を見直したほか、各教科において授業改善を進めることにより生徒一人ひとりの希望に合った進路指導・支援の強化に取り組みました。

iii. 【中学】指導内容の充実

- * 独自の国語教育（朝読書、漢検・英検へのチャレンジ等）及び英語活動（English Summer Scool、English Adventure 等）の実践、福祉講座や伝統文化講座等の開講を積極的に推進しました。

〈常葉学園橘中学校・高等学校〉

i. 「学力を伸ばす」「人間性を高める」取り組みの推進

- * 英語学習システムをはじめとした多岐にわたる進路・学習指導、マナーアップ教育や校内一斉清掃活動等の生徒啓発指導、修学旅行・体育祭・生徒会活動・部活動等学校行事の実践を通じて、所期の目標が進展するよう取り組みました。

ii. 「教育力向上」の取り組みの推進

- * 「橘ゼミ」をはじめとする⁷⁾ベンチマーキング研修及び教科授業研修の実施、外部研修への参加等を通じて、教育力の向上に努めました。

iii. 入学定員の見直し及び校舎改築計画の検討

- * 橘高校の適正規模について多角的な見地から検討し、現行の入学定員500人（英数科80人、普通科420人）を平成27年度から400人（英数科60人、普通科340人）に変更することにしました。

また、橘中・高校の校舎改築計画については、短大部の校舎改築計画に優先して実施することとし、基本設計に着手しました。

⁶⁾ コンピテンシー

職務において高い業績をあげている人の行動特性

⁷⁾ ベンチマーキング

優れた成果をあげている事例を目標にすること。

〈常葉学園菊川中学校・高等学校〉

i. 教育力向上及び進学実績の向上

- * 生徒の心を揺さぶるような授業—知的好奇心に火をつけ、やる気と主体性を引き起こす—を目指し、発見学習・体験学習・問題解決学習・調べ学習等の手法を取り入れた授業実践に取り組みました。

ii. 科・コースの特徴を活かした効果的指導の実践

- * 平成27年度から特進コース及び特進Aコースを統合して文理コースに再編するとともに、普通進学コースについても普通コースへと名称変更することにしました。

iii. 部活動の充実

- * ①常時全国大会への出場を目指す、②常時県・東海大会への出場を目指す、③地域に根ざした活動を継続する、カテゴリーごとにそれぞれの目的が達成できるよう支援を行いました。

〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

i. 6年間を通じた教育の推進

- * 小学校の6年間を通して「自ら学ぶ力」「自立する力」「豊かな心」「健康でたくましい体力」を身につけることができるよう、日常の授業や諸行事の展開に工夫を凝らしました。

ii. 教職員の資質向上

- * 経営方針の浸透と共通指導体制の確立、教育学部と連携した授業改善、自己評価を活かした自己改革、若手・中堅を育てる授業研究等を通じて教職員の資質向上に努めました。

iii. 伝統をさらに磨き一人ひとりの付加価値を高める特色ある教育活動の推進

- * 感性を磨くオーケストラ学習、コミュニケーション力を高める英語教育、情報活用能力を高める情報教育、日本文化を学ぶ書道・図書館指導等を通じて、橘小の特色ある教育活動をさらに発展させました。

○ 幼稚園

〈常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園・常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園〉

i. 保育の向上

- * 教育課程の見直しについて継続的に検討したほか、合同研修会や園外研修会等への参加を通じて教職員の資質向上に資するとともに、自己評価・学校関係者評価を行うことにより、保育の質の向上に努めています。

ii. 幼稚園相互の連携・交流

- * 教職員は合同研修会や幼小研修会、園児は交流行事を通じて相互理解と交流を深めました。

iii. 短大部との連携強化

- * 短大部本科生の教育実習、専攻科実習生の教職実践演習・研究保育等を通じて相互の連携を強化しました。

○ 豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の本年度における活用状況は、次のとおりです。

○ 中・高等学校	35件	3,765千円
○ 小学校	3件	66千円
○ <u>幼稚園</u>	4件	146千円
計	42件	3,977千円

○ 募集状況・進路状況

平成27年度入試（平成26年度実施、以下「本年度入試」という。）における学園全体の学生・生徒等募集状況は、志願者総数が初めて20,000人を超えた前年度実績には及ばなかったものの、大学統合初年度である平成25年度を上回る18,000人近くを確保しました。

このうち、常葉大学の志願者は14,400人で、過去最高を記録した前年度（17,300人）よりは減少したものの、平成25年度（12,500人）から3年連続して12,000人の大台を維持したほか、入学者も3年連続して大学全体の入学定員（1,680人）を確保することができました。しかしながら、全ての学部で入学定員を充足するという目標が本年度も達成できなかった反省を踏まえ、今後もステークホルダーや地域から支持を得ることのできる大学を目指して引き続き大学改革を推進することにより、一刻も早く目標を達成することができるよう努めてまいります。

短期大学部は、高校生の強い4年制大学志向という時代の流れの中で、日本語日本文学科、英語英文科、音楽科3科の学生募集は苦戦を余儀なくされました。こうした中で唯一保育科だけは、幼稚園教諭と保育士の2つの資格を取得できるという強みを活かし、本年度入試においても安定して志願者を集め、入学定員を上回る学生を確保しました。

高校については、前年度は系列の3校合わせてほぼ1,000人近くの入学者を確保したのに対し、本年度入試においては900人を割り込んでしまいました。中学も菊川中学を除いて大幅な定員割れとなるなど、非常に厳しい結果となりました。高校以下の募集について、少子化の影響が色濃く現れている現況を踏まえ、来年度以降は高校以下の募集の安定化策を重点的に推進する必要があります。苦戦の原因を正確かつ速やかに分析して募集計画を再構築し、計画的できめ細やかな募集活動を展開するとともに、特色ある教育活動の推進により一層工夫を凝らし、地域から支持される学校づくりに努めてまいります。

一方、進路については、学園内の大学・短期大学部の就職内定率は、すべての学校で前年度を上回る数字を残しております。各学校ともに、学生に対するキャリアサポートを最重要施策の一つに位置づけ、多様で丁寧な進路支援プログラムを提供することで、早い段階から学生が職業観や就職意識に目覚め、自らが主体的に就職活動を行ったことがこのような結果に結びついたといえます。

さらに、高等学校におきましては、多くの生徒が国公立大学、国公立短期大学、専門学校への進学を果たすとともに、希望する企業等への就職を叶えておりますが、質・量ともにさらにランクアップできるよう引き続きカリキュラムの改善、キャリア支援の充実に努めてまいります。

〈別表1〉

入学状況及び就職状況

(1) 大学・短大・専門学校

(平成27年5月1日現在)

学校名	学部・学科名		入学定員 (人)	入学者 (人)	就職内定率 (%)
常葉大学	教育学部	初等教育課程	110	111	100.0
		生涯学習学科	80	85	98.3
		心理教育学科	80	89	100.0
	外国語学部	英米語学科	100	96	93.9
		グローバルコミュニケーション学科	70	59	94.3
	造形学部	造形学科	80	113	82.4
	法学部	法律学科	160	169	—
	健康科学部	看護学科	80	87	—
		静岡理学療法学科	60	59	—
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	80	76	—
		こども健康学科	50	66	—
		心身マネジメント学科	110	111	—
		健康鍼灸学科	30	26	—
		健康柔道整復学科	30	37	—
	保健医療学部	理学療法学科	40	42	—
		作業療法学科	40	42	—
	経営学部	経営学科（浜松）	—	159	—
		経営学科（富士）	—	159	—
		経営学科計	300	318	—
	社会環境学部	社会環境学科	100	109	—
保育学部	保育学科	80	98	—	
計（就職内定率は3学部計）			1,680	1,793	95.0
浜松大学	ビジネスデザイン学部	経営情報学科	—	—	94.8
		サービスと経営学科	—	—	96.2
	健康プロデュース学部	健康栄養学科	—	—	100.0
		こども健康学科	—	—	100.0
		心身マネジメント学科	—	—	97.2
		健康鍼灸学科	—	—	87.5
		健康柔道整復学科	—	—	92.3
	保健医療学部	理学療法学科	—	—	100.0
		作業療法学科	—	—	100.0
	計			—	—
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	—	—	92.8
	社会環境学部	社会環境学科	—	—	97.7
	保育学部	保育学科	—	—	100.0
	計			—	—
常葉大学 短期大学部		日本語日本文学科	80	41	84.6
		英語英文科	80	32	100.0
		保育科	200	205	100.0
		音楽科	55	29	100.0
	計			415	307
静岡リハビリテーション専門学校		理学療法学科	—	—	77.8

※ 大学院、専攻科、留学生別科は除く

(2) 高等学校

① 入学定員及び入学者数 (平成27年5月1日現在)

学 校 名	科	入学定員	入学者数	
常葉学園高等学校	普通科	240	219	
常葉学園橘高等学校	普通科	340	270	入学定員変更420→340
	英数科	60	52	入学定員変更80→60
	合計	400	322	
常葉学園菊川高等学校	普通科	315	290	
	美デ科	60	52	
	合計	375	342	

②進学・就職状況 (平成27年5月1日現在)

学 校 名	卒業生数	進学者数			就 職	その他
		大 学	短 大	専門学校		
常葉学園高等学校	225	95	45	58	15	12
常葉学園橘高等学校	291	154	27	62	31	17
常葉学園菊川高等学校	325	197	31	54	18	25

④ 教育環境の整備・充実

より充実した教育の実現のため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取り巻く社会環境の変化に即した施設・設備整備事業を実施し、教育環境の整備・充実に取り組みました。

平成26年度は、水落校地整備事業のうち、残っていた校舎外構工事が9月に竣工し、すべての事業が完了しました。また、7月に常葉学園中・高等学校の駐輪場建築工事に着手し、翌年1月に竣工、4月からの使用開始としました。

さらに、一部変更された常葉学園施設整備（改築）中期計画に基づき、耐震性の劣る橘中・高等学校の校舎改築整備を進めていくため、工事設計の策定に取りかかりました。

そのほか、各校の施設・設備の改修、更新等の事業を実施しました。

主な整備事業は次のとおりです。

○ 常葉大学 静岡キャンパス

水落校地整備事業（新学部校舎外構工事）

瀬名校舎給水管等工事（2号館埋設給水管改修 受水槽・高架水槽取替）

瀬名校舎3号館屋上ハンドボール場コート改修工事（1,031 m²舗装）

水落校舎教育研究備品等整備

○ 常葉大学 浜松キャンパス

3号館トイレ改修工事（和式を洋式に変更）

教員用パソコン、プリンター更新（5年リース）

真和体育館雨漏り改修工事

○ 常葉学園中・高等学校

水落校地整備事業（常葉中・高校外構工事）

駐輪場建築工事（鉄骨造3階建、延床面積 999.67 m²）

○ 常葉学園橘中・高等学校

校舎改築工事（測量調査、土壌調査、設計業務委託）

○ 常葉学園菊川中・高等学校

野球場屋外トイレ設置工事

情報機器整備事業（パソコン機器使用等契約）

スクールバス購入（中古車5台）

○ 常葉リハビリテーション病院

医療機器備品購入（全身用X線CT装置外）

通所リハビリテーション建設用地の取得（地積 1,361 m²）

○ 法人本部

サテライトビル屋外広告物設置工事（3ヶ所）

研修センター漏水対応工事

インターネットサーバー更新

旧常葉リハビリテーション病院解体工事

(3) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

施設名・所在地	施設等	面積等	帳簿価額	
常葉大学（静岡キャンパス） （静岡市）	校地	53,592㎡	2,222,144千円	本館、1号館、2号館、 3号館、水落校舎、 サテライトビル
	校舎等 6棟	39,253㎡	4,840,717千円	
（菊川市）	校地	11,524㎡	160,665千円	
	校舎等 3棟	9,184㎡	177,963千円	
（島田市）	寄宿舎 1棟	639㎡	67,708千円	川根実習施設
常葉大学（浜松キャンパス） （浜松市）	校地	205,599㎡	2,862,728千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、トコホール 7号館、8号館、9号館
	校舎等 15棟	41,231㎡	5,091,649千円	
常葉大学（富士キャンパス） （富士市）	校地	88,552㎡	1,942,056千円	1号館、2号館、3号館
	校舎等 6棟	20,642㎡	2,382,807千円	
常葉大学短期大学部 （静岡市）	校地	42,848㎡	1,579,607千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館
	校舎等 11棟	15,149㎡	945,591千円	
常葉中・高等学校 （静岡市）	校地	43,162㎡	2,480,553千円	新校舎、南館、常葉会館
	校舎等 3棟	9,715㎡	1,872,453千円	
橘中・高等学校 （静岡市）	校地	46,020㎡	369,472千円	本館、音楽等、美術棟 新館、和敬庵 尚志館、行之館、橘志館
	校舎等 9棟	18,349㎡	625,760千円	
菊川中・高等学校 （菊川市）	校地	73,920㎡	751,815千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、 美術棟、屋内練習場
	校舎等 10棟	15,305㎡	773,782千円	
橘小学校 （静岡市）	校地	13,703㎡	849,610千円	本館、ワクワクホール
	校舎等 2棟	4,113㎡	191,047千円	
とこは幼稚園 （静岡市）	園地	2,500㎡	171,875千円	
	園舎 1棟	1,361㎡	208,806千円	
たちばな幼稚園 （静岡市）	園地	2,283㎡	231,910千円	
	園舎 1棟	1,520㎡	192,943千円	
静岡リハビリ専門学校 （静岡市）	校舎等 1棟	3,022㎡	363,137千円	
常葉リハビリ病院 （浜松市）	土地	5,777㎡	106,620千円	
	病院 1棟	4,449㎡	885,009千円	

施設名・所在地	施設等	面積等	帳簿価額	
学園本部 (静岡市)	土地	4,546㎡	429,854千円	学生寮、研修センター、 迎賓館、スイミング
	寄宿舍 等 5棟	6,560㎡	289,664千円	
(浜松市)	土地	61,747㎡	775,364千円	三ヶ日セミナーハウス、等
	寄宿舍 1棟	733㎡	104,848千円	
(伊豆の国市)	土地	334㎡	17,000千円	現在使用していない
全体 (平成26年3月31日現在)	土地	656,107㎡	14,951,273千円	
	建物	191,225㎡	19,013,884千円	
			33,965,157千円	

② 主な施設設備の取得又は処分の状況

平成25年度の主な施設設備の増減は次のとおりです。

ア) 施設の取得

- ・常葉大学

水落校舎第3期工事分(鉄骨造8階建)

延床面積 : 3,993.94 ㎡ 取得価格 : 758,534千円

- ・常葉中・高等学校

水落校舎第2期工事分(鉄骨造8階建)

延床面積 : 4,839.07 ㎡ 取得価格 : 1,176,457千円

常葉中・高等学校用地取得

取得面積 : 259.57 ㎡ 契約金額 : 96,620千円

- ・常葉リハビリテーション病院

延床面積 : 4,449.09 ㎡ 取得価格 : 952,829千円

イ) 施設の処分

- ・常葉中・高等学校

旧校舎東館解体撤去(鉄筋コンクリート造4階建)

延床面積 : 1,467.59 ㎡ 除却金額 : 31,555千円

旧校舎北館解体撤去(鉄筋コンクリート造6階建)

延床面積 : 2,200.26 ㎡ 除却金額 : 3,351千円

- ・常葉リハビリテーション病院

旧病棟撤去

延床面積 : 6,131.52 ㎡ 除却金額 : 49,748千円

旧病院土地売却

売却面積 : 6,655.60 ㎡ 除却(取得)金額 : 149,664千円

(売却金額 : 186,500千円)

ウ) 施設設備の用途変更

- ・常葉静岡リハビリテーション専門学校の施設設備の全部または一部を常葉大学へ用途変更

常葉静岡リハビリテーション専門学校理学療法学科を常葉大学健康科学部へ発展転換したことに伴い、常葉静岡リハビリテーション専門学校の校地と校舎の一部を常葉大学の校地と校舎へと用途変更する。

(年次進行)

		旧	新	増減
校 地	リハ専	1,032㎡	0㎡	▲ 1,032 ㎡
	常葉大	64,083㎡	65,115㎡	+ 1,032 ㎡
校 舎	リハ専	3,179㎡	3,022㎡	▲ 157 ㎡
	常葉大	48,919㎡	49,076㎡	+ 157 ㎡

(4) 理事会・評議員会開催状況、監事監査実施状況

① 理事会開催状況

第1回	平成26年	5月25日(日)
第2回	平成26年	5月25日(日)
第3回	平成26年12月21日	(日)
第4回	平成27年	3月22日(日)
第5回	平成27年	3月22日(日)

② 評議員会開催状況

第1回	平成26年	5月25日(日)
第2回	平成26年12月21日	(日)
第3回	平成27年	3月22日(日)

③ 監事監査実施状況

第1回	平成26年	5月15日(木)
第2回	平成26年12月16日	(木)
第3回	平成27年	3月13日(金)

3. 財務の概要

(1) 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校経営の安定を図り、健全な学校運営のため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減」を基本目標に、経営の合理化に努めてまいりました。

平成26年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりです。

平成26年度の帰属収入（消費収支計算書参照）は、133億58百万円と前年度に比べ6億15百万円の増加となりました。これは、常葉大学入学者数が大幅に伸びたことにより授業料や施設設備資金などの学生生徒等納付金が4億90百万円の増収となったことなどによるものです。

また、基本金組入額は、常葉中・高等学校、常葉大学新学部校舎の外構工事及び常葉中・高等学校の駐輪場工事が完成したことに伴う1号基本金への組入れのほか、橘中・高等学校、菊川中・高等学校の改築準備のために設けた2号基本金への組入れなどにより12億円余となり、本年度基本金は591億15百万円となりました。

一方、消費支出の部合計は、124億64百万円で、前年度に比べ3億41百万円の増加となりました。これは、常葉大学新学部の教職員の増員に係る人件費、新学部・常葉中高校舎・リハビリテーション病院の完成に伴う減価償却額の増加などによるもので、人件費1億89百万円、教育研究経費1億86百万円がそれぞれ増加し、消費収入から消費支出を控除した当年度消費支出超過額は3億94百万円となりました。

貸借対照表の資産の部は、前年度に比べ7億92百万円の増加となりました。これは、施設拡充引当特定資産や現金預金などが増加したことによるものです。

また、負債の部は、日本私立学校振興・共済事業団からの長期借入金が増加したことなどにより、前年度に比べ1億2百万円の減少となりました。

(2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

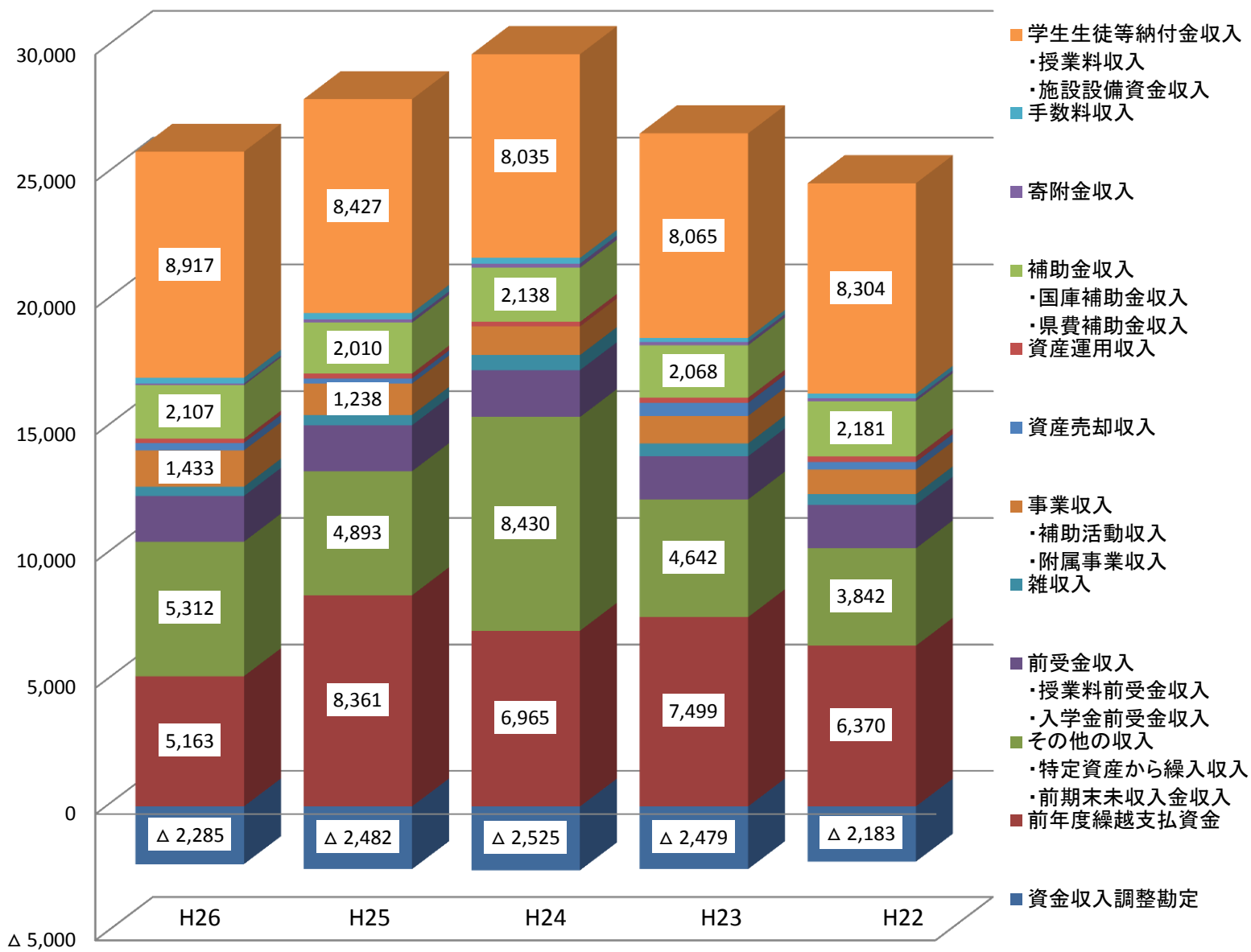
科 目 名		平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,917	8,427	8,035	8,065	8,304
	手数料収入	228	256	221	165	181
	寄附金収入	70	129	164	128	111
	補助金収入	2,107	2,010	2,138	2,068	2,181
	資産運用収入	163	194	175	203	218
	資産売却収入	298	199	1	514	302
	事業収入	1,433	1,238	1,133	1,087	973
	雑収入	365	406	594	506	408
	前受金収入	1,803	1,814	1,849	1,702	1,724
	その他の収入	5,312	4,893	8,430	4,642	3,842
	資金収入調整勘定	△ 2,285	△ 2,482	△ 2,525	△ 2,479	△ 2,183
	前年度繰越支払資金 (*)	5,163	8,361	6,965	7,499	6,370
	合 計	23,574	25,445	27,180	24,100	22,431
支出の部	人件費支出	7,952	7,780	7,621	7,545	7,421
	教育研究経費支出	1,882	1,832	1,728	1,637	1,758
	管理経費支出	1,103	1,065	1,033	912	924
	借入金等利息支出	11	12	14	18	21
	借入金等返済支出	73	73	104	104	104
	施設関係支出	310	3,161	1,870	426	360
	設備関係支出	243	611	677	339	298
	資産運用支出	4,135	4,103	6,471	6,022	3,586
	その他の支出	779	2,088	1,002	916	1,014
	資金支出調整勘定	△ 433	△ 443	△ 1,701	△ 784	△ 554
	次年度繰越支払資金 (*)	7,519	5,163	8,361	6,965	7,499
	合 計	23,574	25,445	27,180	24,100	22,431

【計算書・勘定科目の説明】

- ・資金収支計算書 : 当該年度の収入・支出の内容を明らかにし、現金や預貯金など支払に充てることができる資金(*:支払資金)の有り高を表す。
- ・資金収入(支出)調整勘定 : 当該年度の収入・支出と前年度及び次年度の収入・支出を区分するために設けられた勘定科目(期末未収入金・前期末前受金、期末未払金・前期末前払金)
- ・消費収支計算書 : 当該年度の消費収入及び消費支出の内容を明らかにし、収支が均衡しているかどうか表す。(企業会計の損益計算書を援用している。)
- ・帰属収入 : 当該年度に受領した資金で、借入金や預り金のように返済が必要となるものを除いたもので、学校が自由に使える資金
- ・基本金(基本金組入額) : 学校の永続性を確保するために維持すべき資産の総計で、帰属収入のうちから毎年必要な額の組み入れを行う。(第1号基本金～第4号基本金)
- ・貸借対照表 : 年度末の時点で、どのような資産があり、どのような負債がいくらあるかなど学校法人が保有する財産の状況を表す。

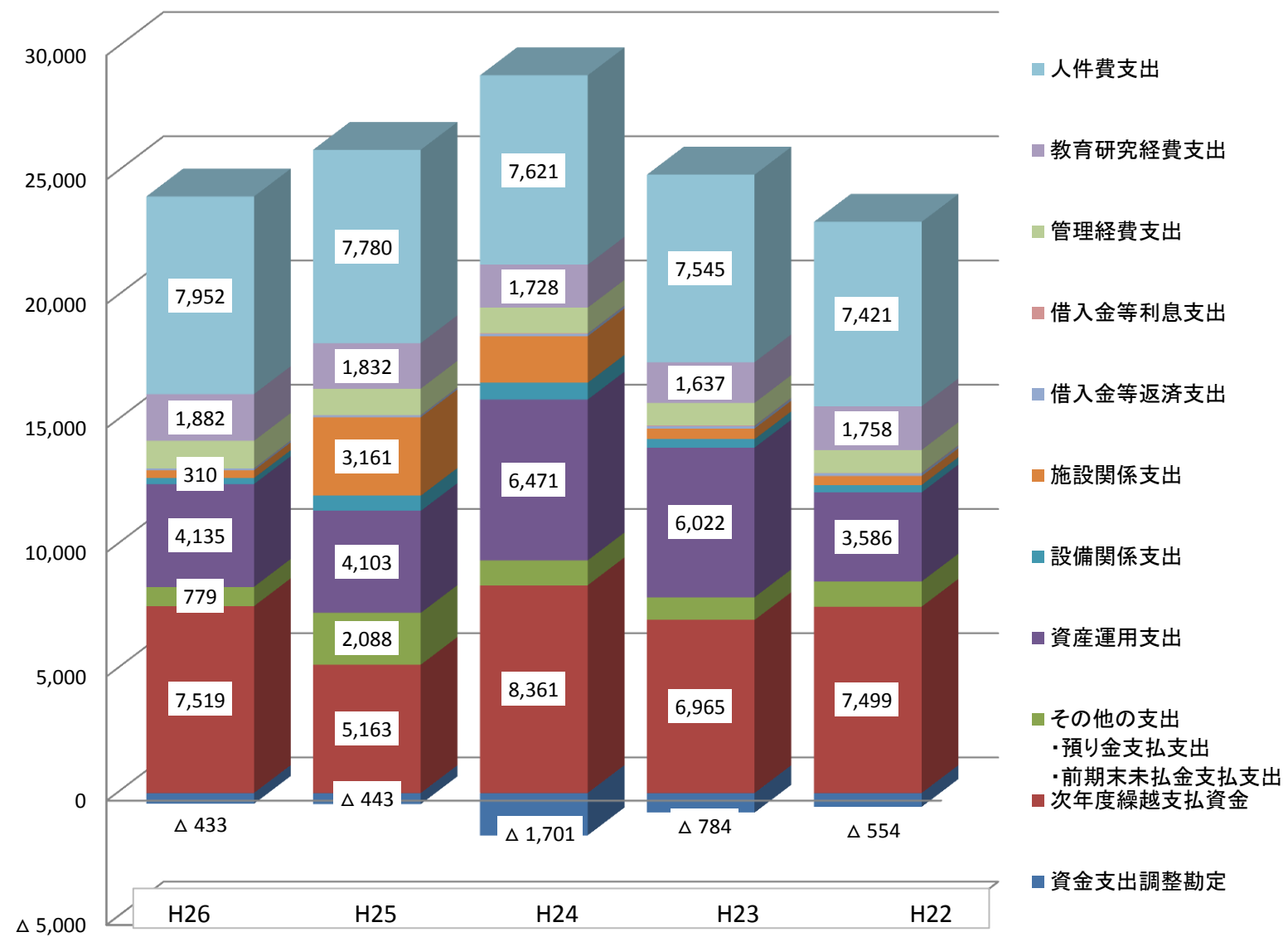
H26 資金収支・収入の部

(単位:百万円)



H26 資金収支・支出の部

(単位:百万円)

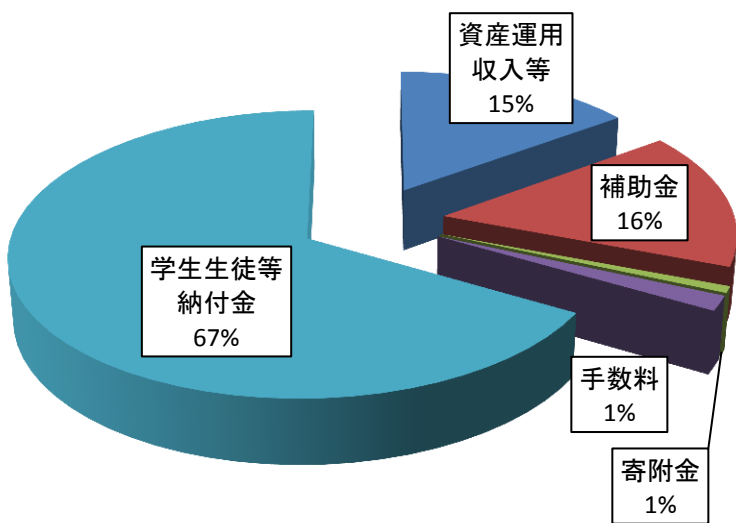


(3) 消費収支計算書

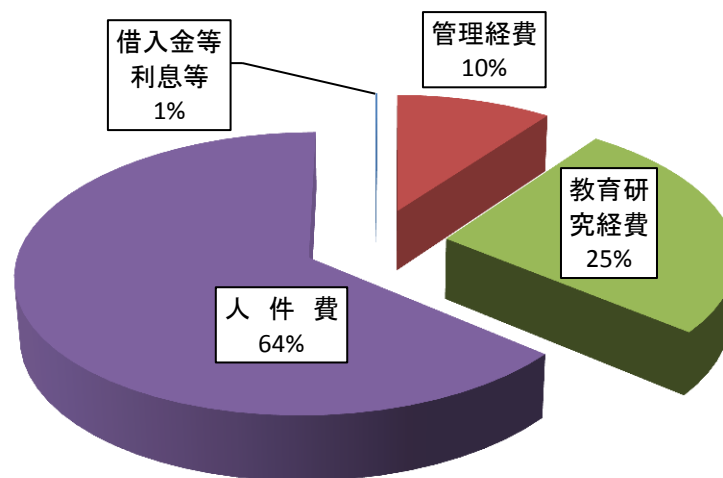
(単位:百万円)

科目名		平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,917	8,427	8,035	8,065	8,304
	手数料	228	256	221	165	181
	寄附金	101	155	190	143	168
	補助金	2,107	2,010	2,138	2,068	2,181
	資産運用収入等	2,005	1,895	1,904	2,086	1,858
	帰属収入合計	13,358	12,743	12,488	12,527	12,692
	基本金組入額合計	△ 1,288	△ 4,019	△ 2,219	△ 1,498	△ 614
	消費収入の部合計	12,070	8,724	10,269	11,029	12,078
消費支出の部	人件費	7,969	7,780	7,621	7,545	7,450
	教育研究経費	3,237	3,051	2,825	2,726	2,859
	管理経費	1,240	1,177	1,136	1,020	1,033
	借入金等利息等	18	115	47	333	146
	消費支出の部合計	12,464	12,123	11,629	11,624	11,488

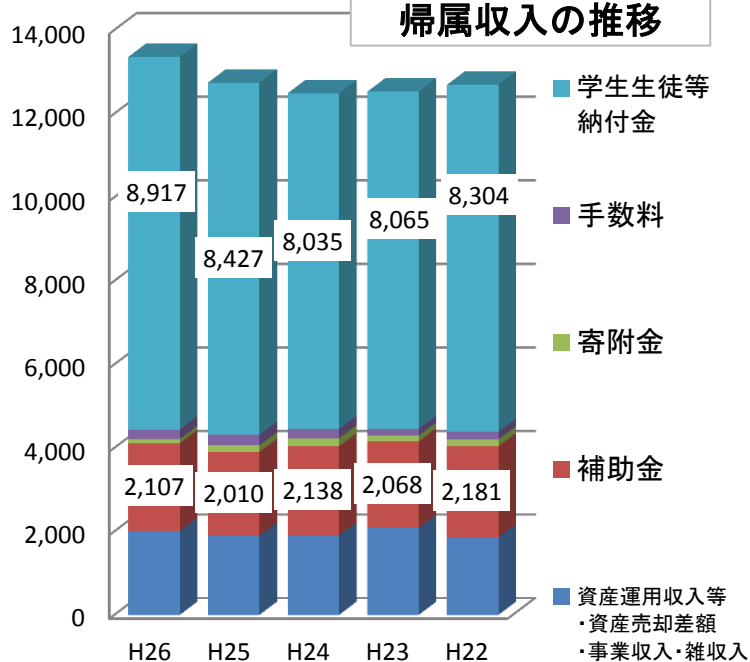
平成26年度 帰属収入



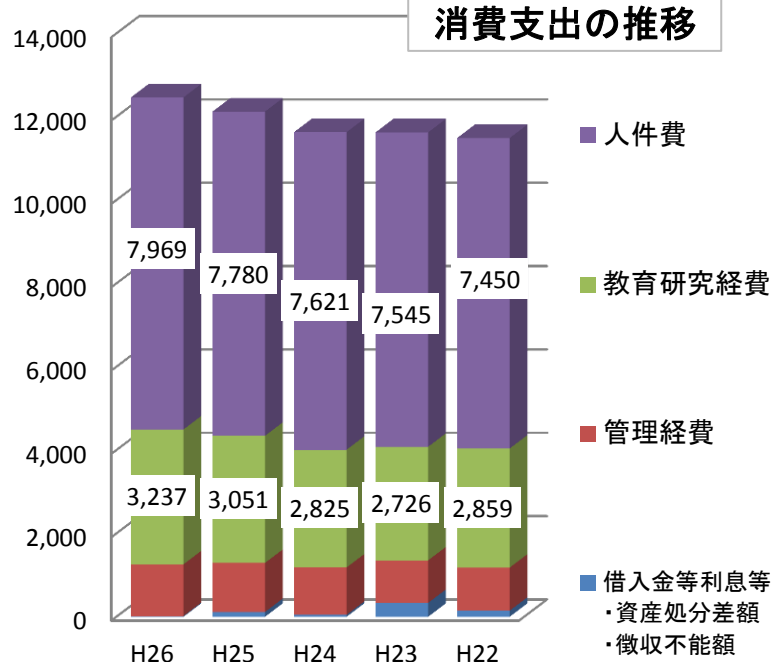
平成26年度 消費支出



帰属収入の推移



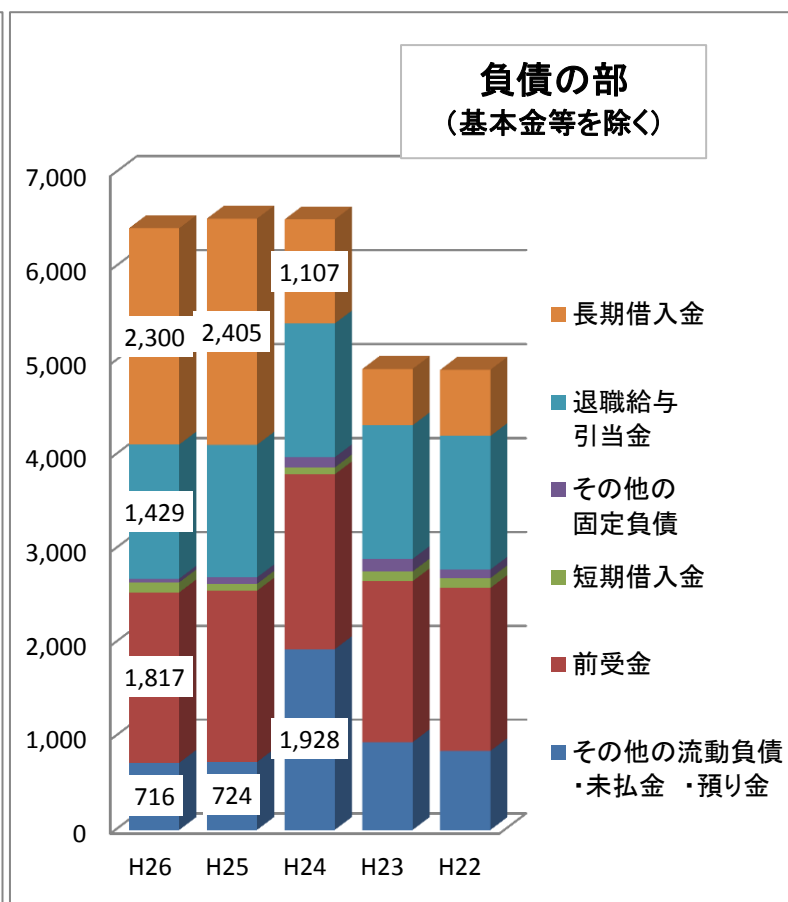
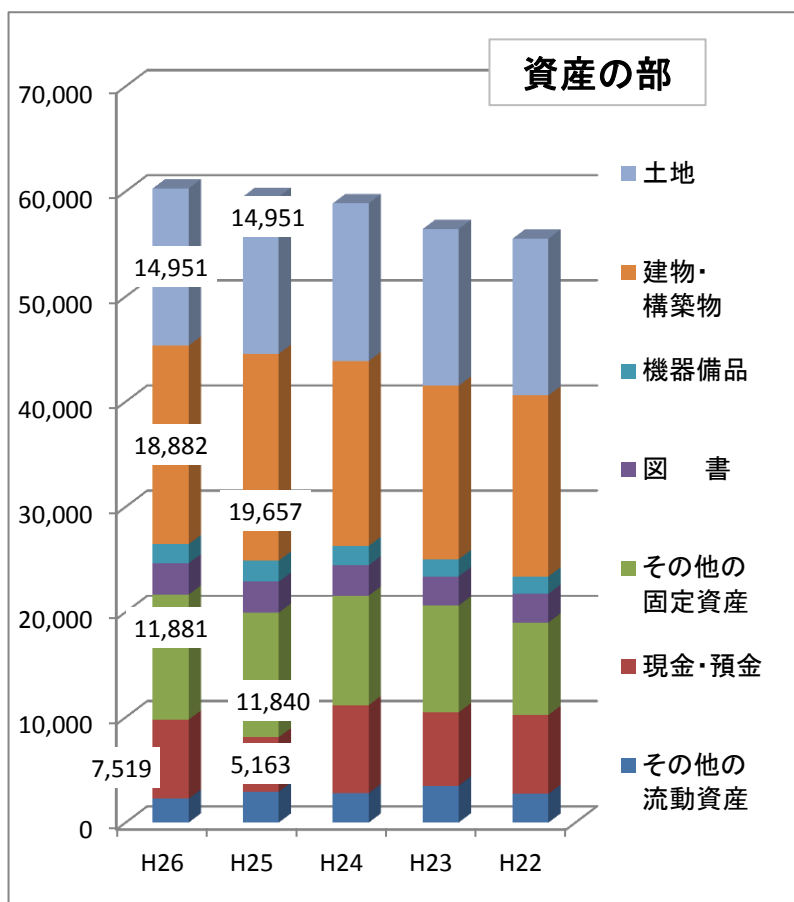
消費支出の推移



(4) 貸借対照表

(単位:百万円)

科目名		平成27年3月31日	平成26年3月31日	平成25年3月31日	平成24年3月31日	平成23年3月31日
資産の部	固定資産	50,505	51,389	47,714	45,949	45,273
	土地	14,951	14,951	15,004	14,906	14,909
	建物・構築物	18,882	19,657	17,571	16,494	17,210
	機器備品	1,812	2,005	1,844	1,625	1,632
	図書	2,979	2,936	2,884	2,776	2,745
	その他の固定資産	11,881	11,840	10,411	10,148	8,777
	流動資産	9,781	8,105	11,153	10,469	10,233
	現金預金	7,519	5,163	8,361	6,965	7,499
	その他の流動資産	2,262	2,942	2,792	3,504	2,734
	合計	60,286	59,494	58,867	56,418	55,506
負債・基本金・消費収支差額の部	固定負債	3,769	3,886	2,638	2,156	2,218
	長期借入金	2,300	2,405	1,107	600	704
	退職給与引当金	1,429	1,412	1,422	1,422	1,422
	その他の固定負債	40	69	109	134	92
	流動負債	2,639	2,624	3,864	2,756	2,685
	短期借入金	106	73	73	104	104
	前受金	1,817	1,827	1,863	1,716	1,738
	その他の流動負債	716	724	1,928	936	843
	基本金	59,115	57,844	53,836	51,924	50,776
	消費収支差額の部合計	△ 5,237	△ 4,860	△ 1,471	△ 418	△ 173
	合計	60,286	59,494	58,867	56,418	55,506

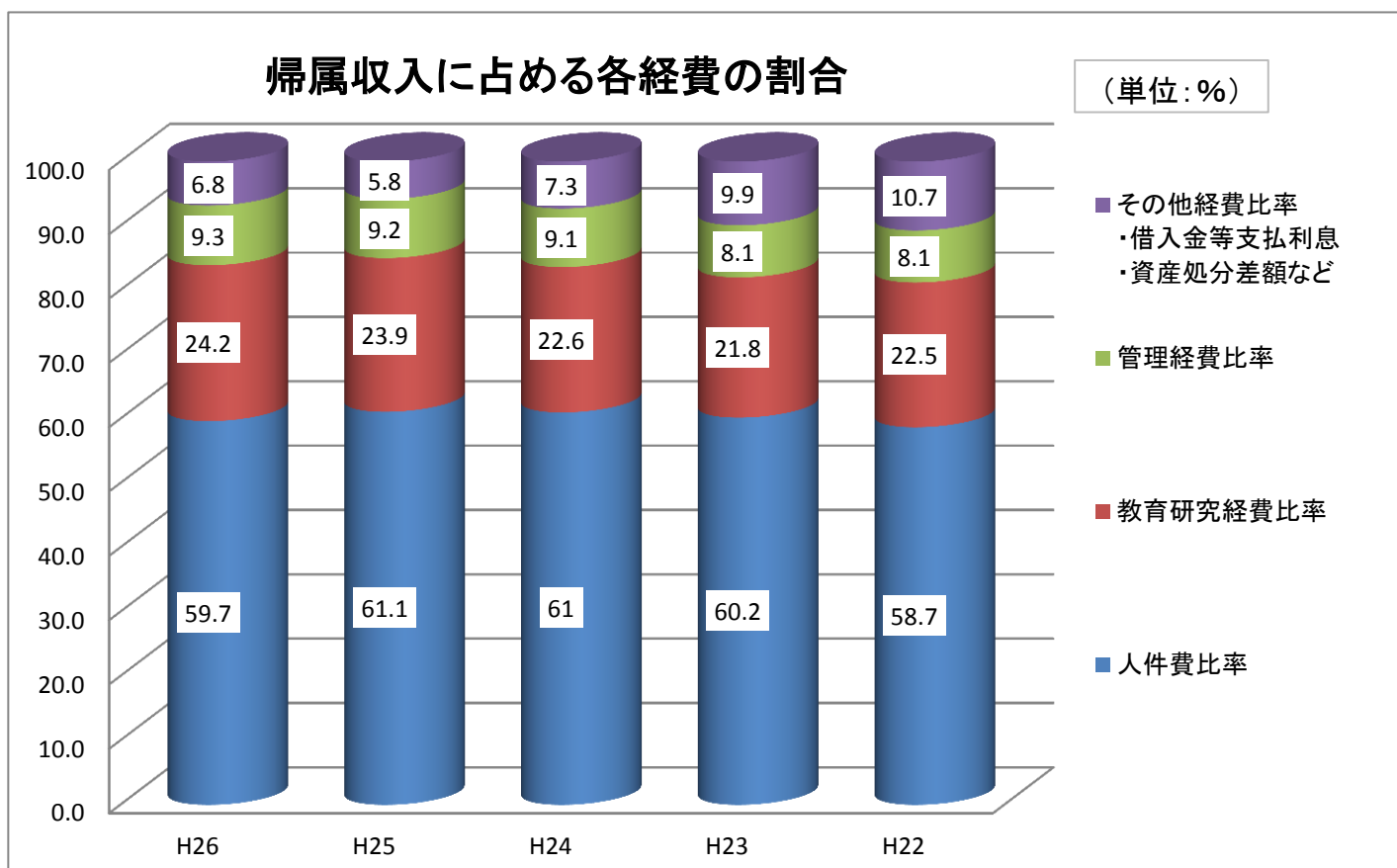


(5) 主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	算式	(注)	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△	6.7	4.9	6.9	7.2	9.5
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▽	103.3	139.0	113.2	105.4	95.1
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	66.8	66.1	64.3	64.4	65.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▽	59.7	61.1	61.0	60.2	58.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	24.2	23.9	22.6	21.8	22.5
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▽	9.3	9.2	9.1	8.1	8.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	370.6	309.9	288.6	379.8	381.1
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	▽	11.9	12.3	12.4	9.5	9.7
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	△	89.4	89.1	89.0	91.3	91.2
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	103.2	101.8	95.7	98.0	98.2

(注) △: 高い値の方がいい ▽: 低い値の方がいい —: どちらとも言えない



総負債 : 固定負債 + 流動負債
 自己資金 : 基本金 + 消費収支差額
 総資金 : 負債(他人資金) + 基本金(自己資金) + 消費収支差額

(6) 借入金の状況

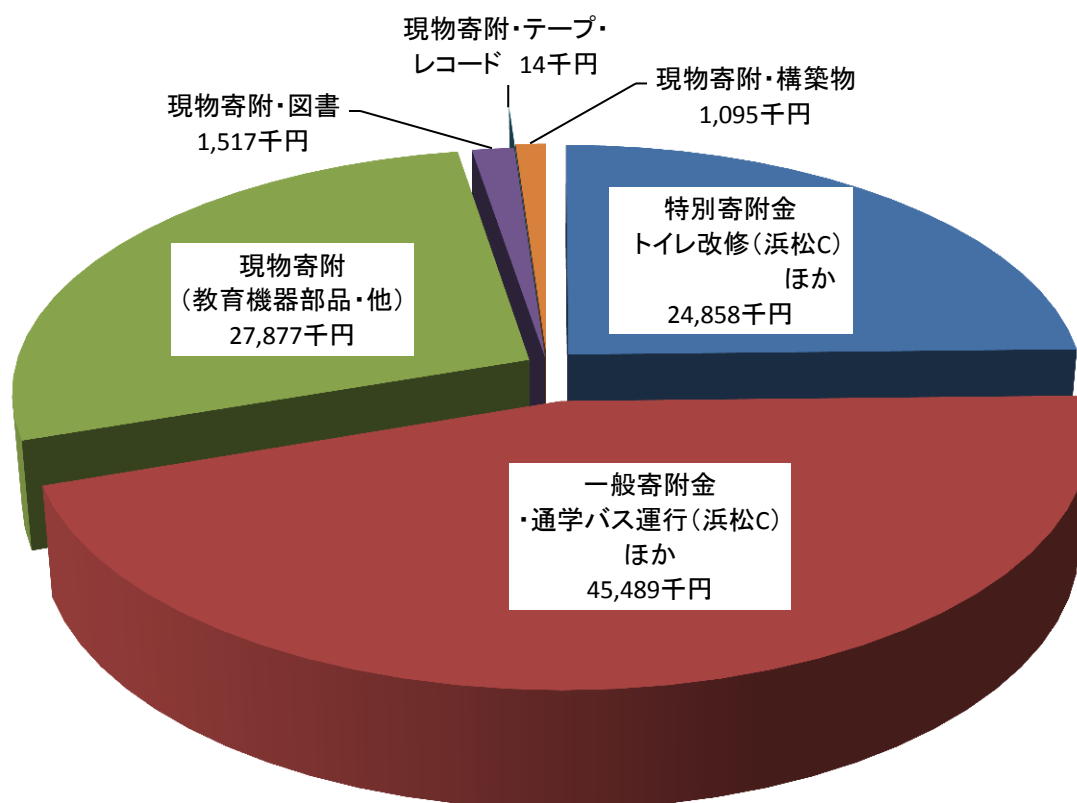
借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校 振興・共済事業団	1,000,000	222,200	2.2	平成30年9月	土地、建物
	320,000	231,010	2.1	平成39年9月	土地、建物
	236,000	236,000	0.5	平成44年9月	土地、(建物)
	344,000	344,000	0.5	平成44年9月	土地、(建物)
	762,000	762,000	0.5	平成45年9月	土地、(建物)
	610,000	610,000	0.5	平成45年9月	土地、(建物)
合計	3,272,000	2,405,210		(建物)は、担保設定の予定	

(7) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(円)	摘要
特別寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会・学友会	9,900,000	校舎3号館トイレ改修工事
一般寄付金	常葉大学浜松キャンパス後援会・学友会	18,000,000	通学バス運営管理委託費
一般寄付金	常葉大学浜松キャンパス(学校行事支援整備会計)	12,000,000	通学バス運営管理委託費

* 300万円以上の寄付金を記載

平成26年度 寄附金収入の内訳



(8) 補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、4大学合計で6億91百万円余、静岡県私立学校経常費補助金(専門学校、高中校、小学校、幼稚園が対象)については、10校合計で12億82百万円余の交付を受けています。

